

中期DX戦略

作成日：2023年4月1日
更新日：2025年12月25日

株式会社エスシーシー

CONTENTS

Our Business

- 01 SCCを取り巻く環境と目指す姿
- 02 価値創造モデル

SCC Digital Transformation

- 03 中期DX戦略
- 04 推進状況の管理と発信

- Our Business -

価値創造モデルと中期的重点課題

SCCの役割



代表取締役社長
春日 邦彦

はじめに

株式会社エスシーシー(以降、「SCC」と記す。)は、1975年の創業以来、ソフトウェアコンサルタントとして金融、運輸、セキュリティ等、多岐にわたる分野のシステム開発を行い、システムを導入するお客さま、そしてその先のシステムを使うお客さまの課題を解決することで、日本の高度情報社会化に貢献してまいりました。

社会の方向性と、SCCの役割

デジタル技術の急速な進化は、ビジネスの枠組みを大きく変革し、業界・業種を超えた価値創造によるイノベーションを加速させています。特にAIの進化は著しく、今や多様な業種・業態で活用が進み、その有効な活用が競争優位性の確立と新たな企業価値の創出を左右する重要な要素となっています。

SCCは、この潮流を的確に捉え、生成AIをはじめとする先端技術の積極的な活用を推進することで、提供価値のさらなる向上、意思決定の迅速化、そして新たなサービス創出を実現してまいります。

一方で、AIの活用には、誤情報の拡散や知的財産権侵害など、企業の信用を揺るがしかねないリスクも存在します。こうしたリスクに対して、SCCは全社的なセキュリティ・ガバナンスの強化と、社員の思考力とデジタルリテラシーの向上に取り組めます。

本戦略の推進により、SCCはこれまで以上に高度で多様なニーズに応え、「期待を超えるものづくり」を実現します。そして、お客さまや社会に対して、これまでにない「創造価値の提供」を果たし、社会を高度情報社会の先にある未来へと導いてまいります。

SCCの「夢」と「志」

夢

Dream

お客さまの期待を超えるものづくりと創造価値の提供で、情報社会の先にある、
豊かな未来社会を切り拓く。

志

Purpose

私たちは、ITでお客さまに感動を届けたい。
私たちは、経験と技術、創造価値で社会を未来に導きたい。
私たちは、お客さま、社会、社員を幸せにしたい。

< SCCコーポレートサイトより抜粋 >
<https://www.scc-kk.co.jp/philosophy/>

社会の状況遷移、抱える大きな課題、そして未来社会への貢献を踏まえて、
これからSCCが目指す先を「夢」、大切にしたい想いを「志」という言葉で
定義しています。

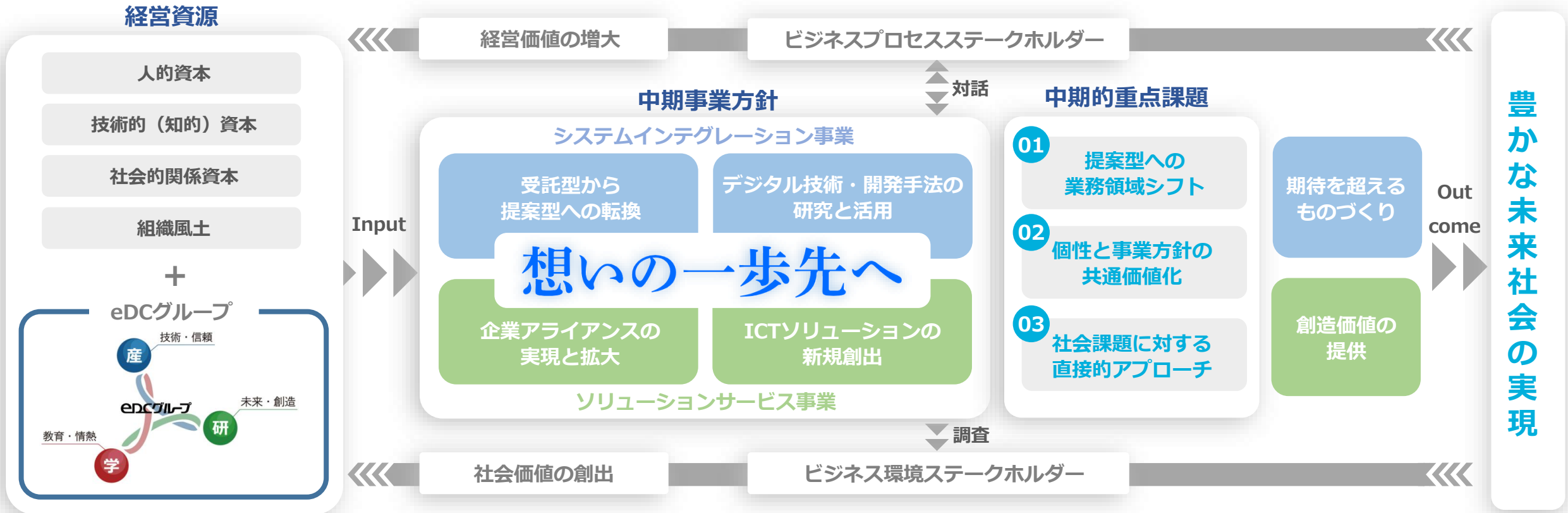
2023年度よりSCCは、「夢」と「志」のもと全社一丸となって、
社会のニーズや課題、ひいては豊かな未来社会の実現に貢献してまいります。

株式会社エスシーシー
代表取締役社長

春日 邦彦

「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル

夢・志



eDC-DNA : **Quality First**

「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル（経営資源・ステークホルダー）

経営資源

夢・志

- ・ 開発品質/スピード/開発量の向上
- ・ 企業間でのより強固な協働/協創体制
- ・ より高度な特定(専門的)技術の要求

ビジネスプロセスステークホルダー

中期事業方針

中期的重点課題

- 01 提案型への業務領域シフト
- 02 個性と事業方針の共通価値化
- 03 社会課題に対する直接的アプローチ

期待を超えるものづくり

創造価値の提供

豊かな未来社会の実現

ビジネス環境ステークホルダー

- ・ 少子高齢化による労働(エンジニア)人口の減少
- ・ 社会インフラの老朽化、スマートシティ化
- ・ DXの潮流による多種多様な業界からのIT需要拡大

eDC-DNA : Quality First

「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル（中期事業方針）

お客さまの潜在的ニーズを汲み取り、
要望の一步先を捉えた価値を提案することで、
お客さまのビジネスをより加速させます。

AIを中心としたデジタル技術を研究・活用し、
既存事業の底上げ、及び、来たる未来社会に必要な
技術習得を実現します。

中期事業方針

システムインテグレーション事業

受託型から
提案型への転換

デジタル技術・開発手法の
研究と活用

想いの一步先へ

企業アライアンスの
実現と拡大

ICTソリューションの
新規創出

ソリューションサービス事業

中期的重点課題

- 01 提案型への
業務領域シフト
- 02 個性と事業方針の
共通価値化
- 03 社会課題に対する
直接的アプローチ

期待を超える
ものづくり

創造価値の
提供

企業アライアンスを実現・拡大することによって、
双方が持続的に成長し合える協働/協創体制の
構築・拡大を実現します。

これまでのソリューションを拡大、低コスト化、
スピード向上すると共に、更なる社会課題を解決する
新規ソリューション創出を実現します。

eDC-DNA : Quality First

豊かな未来社会の実現

「夢」「志」の達成に向けた価値創造モデル（中期的重点課題）

中期的重点課題

経営資源

中期事業方針

受託型から
提案型への転換

デジタル技術・開発手法の
研究と活用

企業アライアンスの
実現と拡大

ICTソリューションの
新規創出

01

提案型への業務領域シフト

システムインテグレーション事業において、受託型から提案型へと業務領域をシフトするにあたって、**提案型へシフトするためのリソース確保**、及び、**AIを活用した技術的な集合知を形成することによる平準化・高品質の安定化**を実現します。

02

個性と事業方針の共通価値化

事業方針に社員一人ひとりの行動特性といった観点を加えた育成を実施することで、**スペシャリスト人材の育成**、及び、**個人特性を踏まえた育成**を実現します。

03

社会課題に対する直接的アプローチ

既存領域や既成概念に囚われないチャレンジ精神の元、社会課題に対してより直接的なアプローチを行います。これまで接点の無かった業種/業態との企業アライアンスを実現し、共に歩み、共に栄えることができる**新たなビジネスモデルの創出**を実現します。

期待を超える
ものづくり

創造価値の
提供

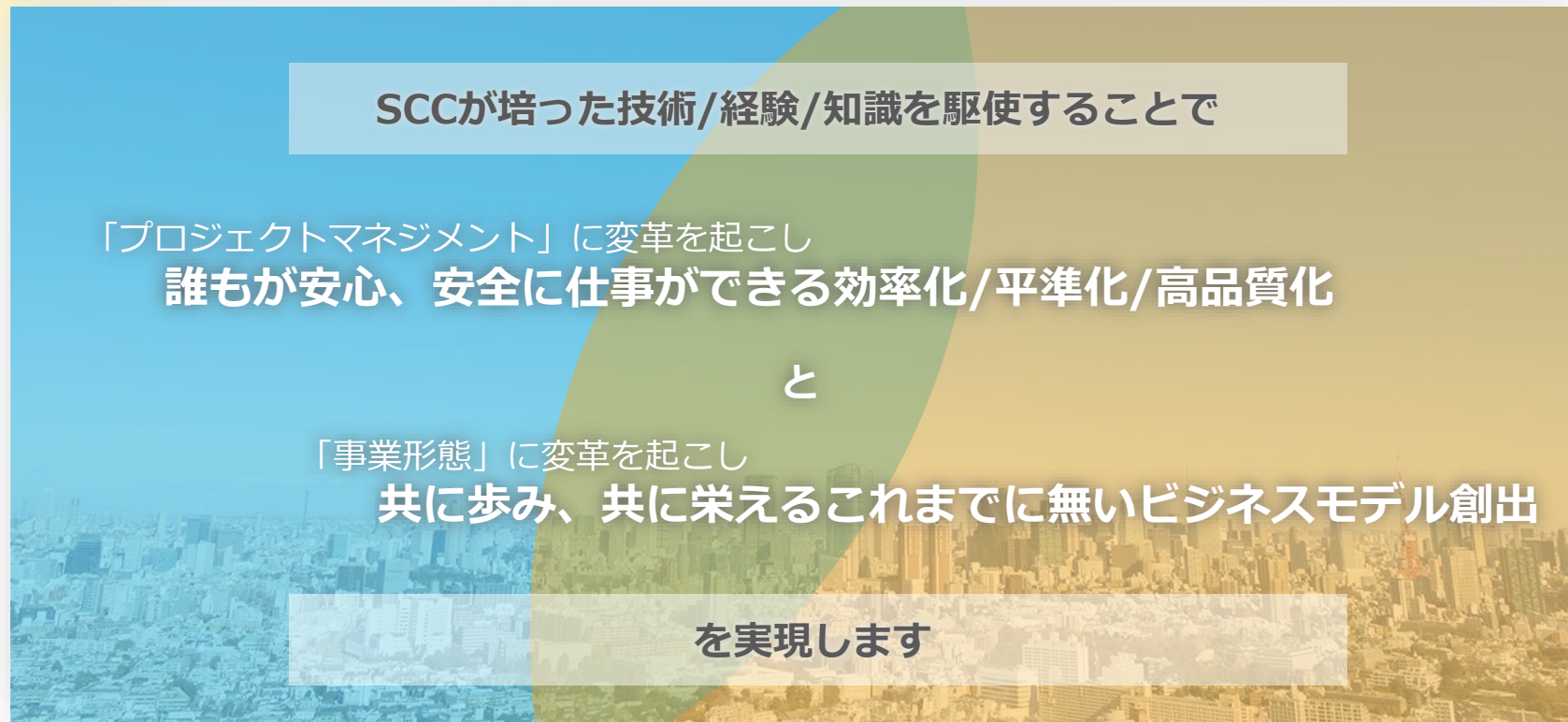
豊かな未来社会の実現

- SCC Digital Transformation -

中期DX戦略

中期DX戦略における大方針

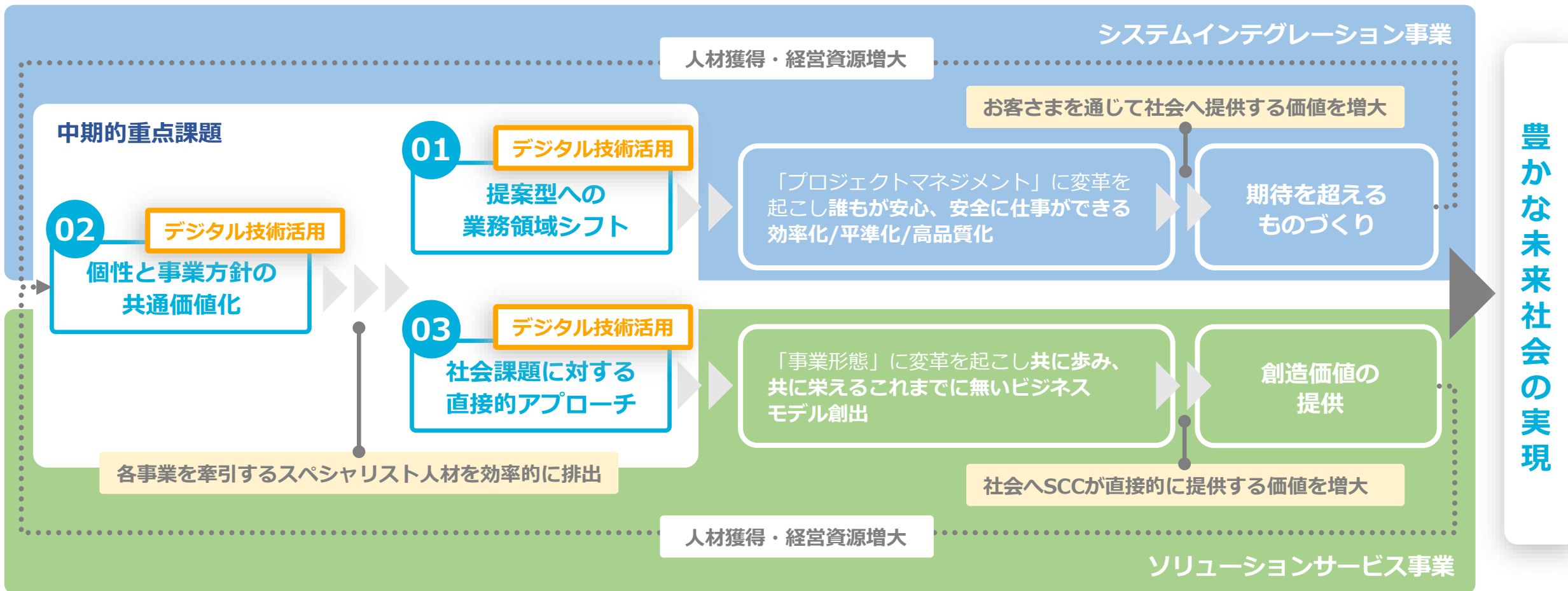
価値創造モデルの実現、中期的重点課題と設定した各項目に対して、デジタル技術活用方針や環境整備方針等を示したものが「中期DX戦略(※)」となります。中期DX戦略における大方針は以下の通りです。



※中期的重点課題に対する戦略であることから、期間は2023～2025年を設定しております。

デジタル技術活用方針

価値創造モデルの実現に向けた、中期的重点課題に対するデジタル技術活用方針です。中期的重点課題に対して、デジタル技術活用を推進することで価値創造モデルの実現確度をより高めます。



重点施策

デジタル技術活用方針を元に、「中期DX戦略」における重点施策を以下の通り決めました。

中期的重点課題

01 提案型への業務領域シフト

提案型へシフトする
ためのリソース確保

平準化・高品質の安定化

02 個性と事業方針の共通価値化

スペシャリスト人材
の育成

個人特性を踏まえた育成

03 社会課題に対する直接的アプローチ

共に歩み、共に栄える
新たなビジネスモデル創出

デジタル技術活用施策



プロジェクトマネジメント
支援AIシステムの構築

中期KGI:AI精度90%以上

SCCで培ったプロジェクト情報を集合知としてデータベース化、AIに連携することで現状を自動評価・分析し、判断結果を応答します。プロジェクト・マネージャが実施する業務の一部をサポートする仕組みを構築します。



タレント活用のマネジメント
システム構築

中期KGI:全社員対象に運用開始

社員が持つスキルやポテンシャルを可視化し、かつ、キャリアサポートとリンクさせることで、効果的な育成ロードマップ実現、会社と個人の共通価値化を実現する社内タレントマネジメントの仕組みをデジタル技術を活用して構築します。



企業アライアンスによる
コラボレーションビジネスの開始

中期KGI:アライアンス事業開始件数8件

SCCの持つデジタル技術の知識、経験を元に、デジタル化を望むアライアンス先とのレベニューシェア型(コラボレーション)ビジネスを開始することで、既存領域、既成概念に囚われないアライアンス先の獲得、及び、新規ビジネス創出を開始します。

環境整備方針

「中期DX戦略」の推進において、「支援・育成」「職場環境」「作業・セキュリティ」「組織風土」それぞれの観点にて環境整備を推進することで、事業基盤をさらに盤石化させるだけでなく、新たな価値創造を行う環境・文化を整備します。

支援・育成

- ・ AIを専門とする研究活用、知見の集約を担う組織の設置
- ・ 全社横断的な技術/マネジメント支援の推進
- ・ 培った知見、研究開発を元にした実践的な研修・育成の実施
- ・ キャリアサポートを専門とする支援組織の設置

職場環境

- ・ 働き方の自由度、柔軟度を高めるABW型オフィスへのリニューアル
- ・ 全社コミュニケーションツール導入によるロケーションに依存しないコミュニケーションの実現、タテ・ヨコ・ナナメのコミュニティ形成
- ・ バーチャルオフィス活用によるリモート勤務推進

DX

作業・セキュリティ

- ・ バックオフィス系サービスの導入によるペーパーレス推進
- ・ AIの積極活用による作業の効率化/省人化
- ・ セキュリティ強化に向けたゼロトラスト化推進
- ・ パートナー会社を含む、徹底したセキュリティ教育と事業環境の提供

組織風土

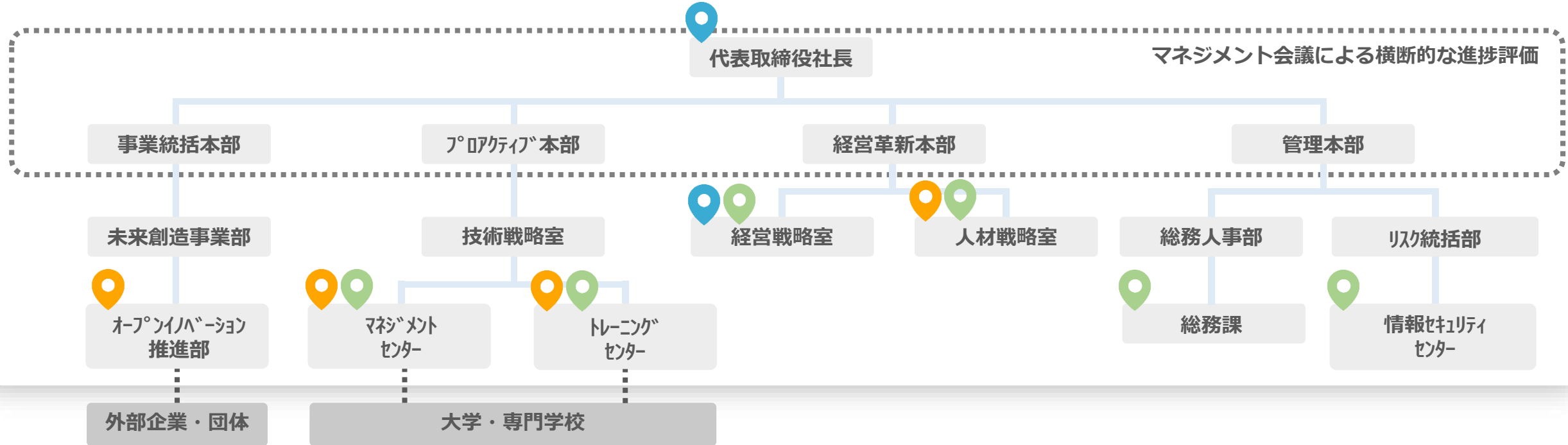
- ・ AI活用/アウトソーシングを積極活用するコスト/生産性意識の向上
- ・ 行動指針の浸透と実践による、経営ビジョン実現に必要なマインド醸成
- ・ 資格インセンティブ等による自律的なスキルアップ、キャリア形成支援
- ・ CSR策定と浸透によるガバナンス強化

03 中期DX戦略 推進体制

「中期DX戦略」のデジタル技術活用、及び、環境整備は以下の体制にて推進されます。

※関係部門のみ抜粋

DX推進体制



推進責任・全体管理

総括責任者：代表取締役社長
DX推進全体管理：経営戦略室

戦略推進

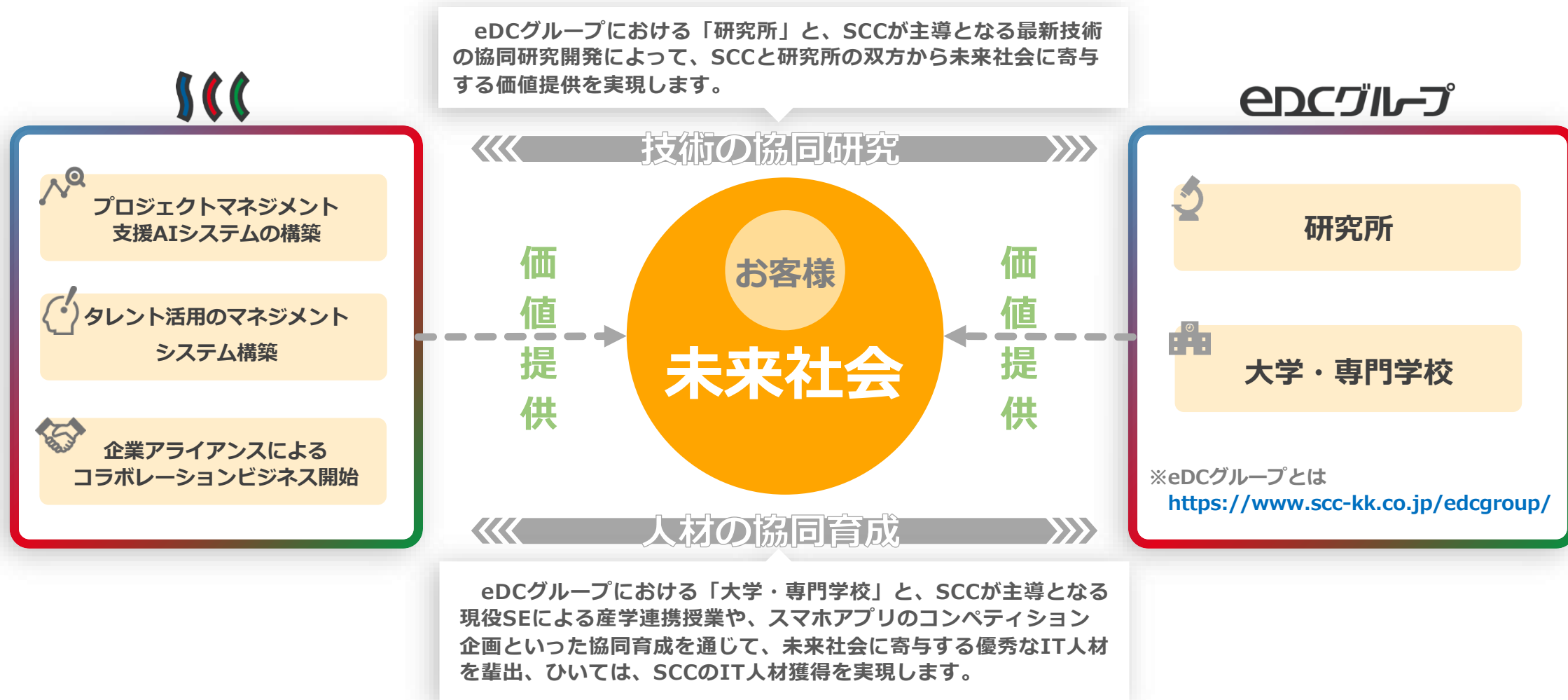
プロマネ支援AIシステムの構築：マネジメントセンター
タレント活用のマネジメントシステム構築：人材戦略室、トレーニングセンター
コラボレーションビジネスの開始：オープンイノベーション推進部

環境整備

支援・育成：人材戦略室、マネジメントセンター、トレーニングセンター
職場環境：総務課、情報セキュリティセンター
作業・セキュリティ：情報セキュリティセンター
組織風土：経営戦略室

グループシナジー活用方針

中期DX戦略はSCC内にとどまらず、eDCグループ(※)の持つ「産・学・研」のシナジーを活用することによって、IT業界全体における土台を支え、未来社会を実現します。



推進状況の管理と発信

DX推進状況の管理

「中期DX戦略」は代表取締役社長、及び、各本部を担当する取締役を中心とした、経営陣や事業部、間接部門などが一同に会する会議体にて進捗状況や課題等を共有・管理・フィードバックします。

会議体は月次、四半期、年次の3分類で開催され、それぞれのサイクルにてPDCAを回すことにより、確実な推進と達成を実現します。

DX推進状況の発信

「中期DX戦略」の推進状況、及び、社会の状況変化等を踏まえたSCCとしての方針は、半期に一度総括責任者から自社Webサイトを通じて発信を行います。発信内容は以下に掲載いたします。

DX推進状況：<https://www.scc-kk.co.jp/dx/>

お問い合わせ先

株式会社エスシーシー 経営戦略室

TEL：03-3319-4301

FAX：03-3319-6999